

【平成15年度専修学校 IT フロンティア教育推進事業】

事業名	GIS を利用した環境保全支援のための教育プログラムの開発と実証実験		
学校法人名	学校法人 中央工学校		
学校名	専門学校 中央工学校		
代表者	理事長 大森 厚	担当者・連絡先	米良 力 北区王子本町 1-26-17 03-3906-1211 mera_t@chuoko.ac.jp
<p>&lt;事業の概要&gt;</p> <p>事業の目的</p> <p>環境保全に対する市民の興味・関心は強いが起業するとなると障壁が高いようである。森林の利活用、間伐材の利活用、土壌汚染対策など、それぞれの分野で注目されはじめている事業をGIS(地理情報システム)により統合し、地域住民によるNPO法人起業などにより環境保全事業を支援する人材の育成を目指す。</p> <p>教育プログラム作成上の組織体構築</p> <p>「植林によるCO<sub>2</sub>の削減WG」は、国際問題にもなっている地球温暖化に関わりがある植林によるCO<sub>2</sub>の削減に関するデータの整理や今後の地球環境問題のデータベースとなりうるものを作成し、解析や分析を行うことのできる教育プログラムについて検討。</p> <p>「間伐材の利活用WG」は、間伐材の有効利用を検討し、環境問題ともリンクさせて、森林整備や管理に関する教育プログラムについて検討。</p> <p>「土壌汚染対策WG」は、近年の有害物質による土壌汚染の判明件数の増加が著しく、「土壌汚染対策法」が平成14年5月に公布された。そこで、土壌汚染環境問題のデータベースの作成、解析を行い、土壌整備管理を行うことができる教育プログラムについて検討。</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>本事業の目的は、IT 関連分野において、新産業創出の担い手となる起業家精神を有する人材育成を図ることにある。起業家精神を養生するためには、ニッチであろうその分野に取り組むことが、いかに社会への貢献度の高いことなのかを認識させ、さらに、事業の種となるシーズがいろいろな形で芽を出しつつある状態にあることを意識させる必要がある。つまり、意義を見だし、機会を感じさせることが重要なのである。</p> <p>各検討部会のまとめ</p> <p>(1) 環境保全活動として「植林によるCO<sub>2</sub>の削減」、「間伐材の利活用」、「土壌汚染対策」の3分野を取り上げ、GIS を利用した教育プログラムを開発。</p> <p>(2) 上記3分野のそれぞれのコースと、総合コースとして実証実験を27回に分けて実施。</p> <p>今後の検討課題</p> <p>(1) PC系GISはユビキタス時代には不十分であり、トロン-リナックス・ジャバ系GISについて、その教育実用性等を検討しなければならない。</p> <p>(2) 3D-GISが今後の主流をなすと思われ、その対策を考える必要がある</p> <p>(3) 環境会計における積算実務についての検討を深める必要がある。</p> <p>(4) 起業家育成のためには、事業モデルの構築方法なども教育プログラムに入れるべきであろう。</p>			